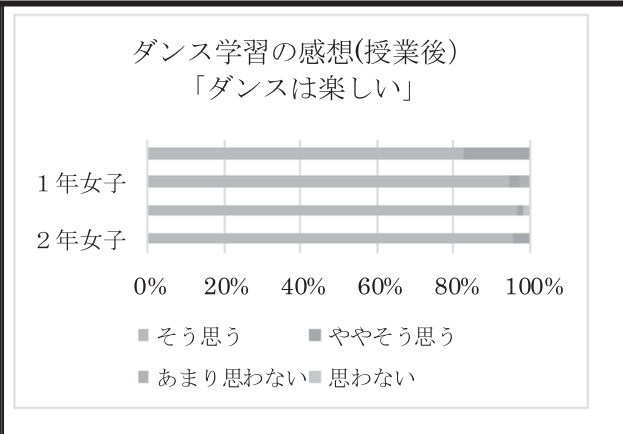
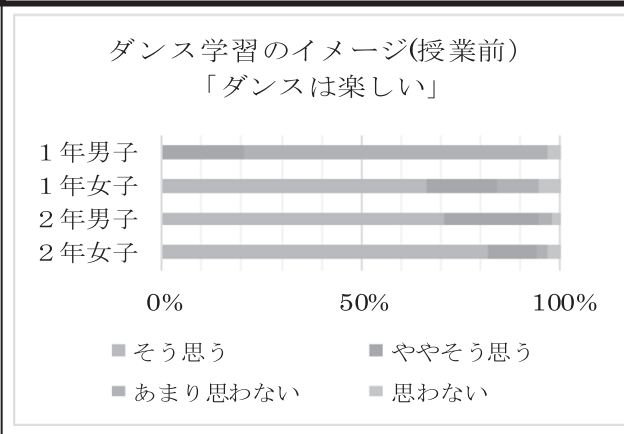


○ 研究内容



【ダンスについてのアンケート（授業後）】1.2年生男女対象



【授業を終えての客観的な成果・分析と実践校としての成果と感想】

単元計画では、1・2年生共に、現代的なリズムのダンスで計画した。2年生は昨年度の経験もあり、互いに刺激し合い、お互いに高め合う姿勢が見られた。

「ダンスの技能を高めること」が主でなく、ダンスを通して身体を動かすことの楽しさを伝えるという外部指導者と教員との指導方針が浸透し、表情豊かに活動する生徒の姿が徐々に見られるようになった。更に外部指導者に専門的な動きについて追求するようになった。1年生では、積極的に外部指導者と関わろうとする場面が多く、ステップができるたびに歓声が上がった。発表会では、他のグループに見られない動きに対する称賛の拍手や歓声が多かった。生徒が互いに高め合おうとする態度が見られ、充実した学習が展開されたと思う。2年生は昨年度以上に動きの幅が広がり、声や表情といった心の動きも広がっていった。そして、楽しさを感じ取り、普段の授業では見せない生き生きとした表情で踊る姿が見られた。昨年度は消極的であった生徒や、他領域では技術の進歩があまり見られない生徒も、積極的に体を動かす姿が印象的であった。男子のグループでは、コミカルな動きも取り入れ、大いに盛り上がった発表会になった。アンケート結果からも分かるように、経験のなかった1年生男子は、授業前の「楽しいと思わない」と答えた生徒のほとんどが「楽しい」と答えたように、心の変動が大きかったことが一番の成果ではないかと考えられる。

外部指導者による指導体制がいつまで続けられるのか明確ではないが、教員でも指導できるよう、指導法を学んだり、研修を深めたりしていかなければならない。

本年度は、北中での割当時数の確保ができずに、外部指導者に不快な思いをさせることもあったと思うが、それでも一生懸命に取り組んでいただいたことに深く感謝の意を表したい。来年度には、体育大会での表現、武道演武の実施ということを前向きに検討していく必要性を感じた。

外部指導者とICTの活用により学習に意欲的に取り組む生徒の育成

学校名 松山市立東中学校（愛媛県） 1・2年

全校生徒数 282名（男子 154名 女子 128名）

種目等 ダンス

（本事例に係る問い合わせ先）

電話番号 089（924）8588

学校メールアドレス mate-jof@esnet.ed.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者の活用によって、生徒のダンスへの興味・関心が高まり、意欲的に取り組めるようにする。
- (2) ICT（タブレット、TV、ビデオ）の活用によって、生徒が自主的に学習の振り返りをしたり、人に見せることの楽しさを知ったりすることによって、技能を伸ばすことができる。

2 実践研究の概要

- (1) 外部指導者の支援によって、ダンスをすることの楽しさ、見ることの楽しさ、見せることの楽しさを経験することができるであろう。
- (2) ICTの活用によって、授業の中で質の高い「振り返り」ができるとともに、お互いが練り合い高め合う集団ができるであろう。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- (1) 外部指導者の支援の工夫
 - ① 授業の最初に学習課題や約束事を提示し、大学生と一緒にゲームを楽しんだり、エクササイズで思い切り体を動かしたりすることにより、体と心をほぐし不安を取りのぞくよう努めた。
 - ② 80～105人の男女共修であるため、大学生は常時フロアで声かけをしながら生徒の支援をした。また、授業の前後に必ず打ち合わせの時間を設け、生徒の把握、授業の進め方について詳細に話し合いをした。
- (2) ICTの活用の工夫
 - ① 各班でタブレットを使用し、オリジナルダンス創作の練り合い、振り返りを行った。
 - ② タブレット、テレビ（インターネット接続）、ビデオの操作の仕方を学習し、誰でも操作できるように指導した。
 - ③ 動きの大きさ等を映像で客観的に見て、よりよくするための話し合いや磨き合いをすることができる場面を作った。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 大人数のため、班の練習の場を体育館、体育館周りのデッキスペース、体育館横の多目的室に確保した。
- 2 授業の最初にゲームやランニングエクササイズの時間を十分に確保した。
- 3 マイクやタイマー（TV表示）を使い、指示の出し方・提示の仕方を工夫した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 授業の最初に「思いやりをもつ」「拍手をする」「良いところ探しをする」ことを約束事として提示することで、お互いを認めようとする姿勢が育った。
- 2 互いに映像を撮ったり、見たりすることで、意見を出し合い、磨き合おうとする意識が高まった。
- 3 松山市教育研修センターとの連携により、「授業の振り返り」に重点を置いた授業の展開ができた。
- 4 授業時間が9時間であったが、より達成感を味合わせるためには、11時間が必要と感じた。

○研究内容

【ICTの活用】
自分たちの動きを振り返る。



【教員の支援】
各班に会った支援を行う。



【振り返り】
各班の振り返りの仕方を理解させる。



【外部指導者の活用】
大学生にアドバイスをもらう。



【ICTの活用】
振り返り、練り会うために映像を撮り会う。



【掲示】
前時の振り返りと本時の努力点を提示しておく。



【アンケートから】

- ・ ダンスの学習に意欲的に取り組んだ。 (やや) 当てはまる 99% (あまり) 当てはまらない 1%
- ・ 見せ合ったり発表したりする場面で、仲間のよい動きや表現などを指摘することができた。 (やや) 当てはまる 95% (あまり) 当てはまらない 5%
- ・ オリジナルのダンスの創作では、積極的に動きのアイデアを出そうとした。 (やや) 当てはまる 93% (あまり) 当てはまらない 7%
- ・ 積極的にタブレットやモニターを操作し、利用した。 (やや) 当てはまる 94% (あまり) 当てはまらない 6%

【アンケートから見える成果と今後の課題について】

- ・ 外部指導者と教員が情報交換を密にしたことによって、個に応じた細やかな指導ができた。それにより、大変意欲的にダンスの授業に取り組む集団になった。
- ・ タブレットの使用により、技能の向上を目指して互いが認め合う姿がよく見られた。
- ・ ICTの活用については、興味・関心が高く、それぞれが役割を分担しながら活用する姿が見えた。一部の種目に限らず、授業の中での振り返りや技能の上達を課題としてICTの活用をしていきたい。

外部指導者と連携し、生徒の興味・関心を高め、生徒が意欲的に活動する授業の実践例

学校名 松山市立北条北中学校（愛媛県）2年
全校生徒数 325名（男子167名 女子158名）
種目等 ダンス（現代的なリズムのダンス）
（本事例に関する問合せ先）
電話番号 089(993)0038
学校メールアドレス hojn-jof@esnet.ne.jp

1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導の在り方
- (2) 生徒のダンスに対する興味・関心を高める工夫

2 実践研究の概要

(1) 課題について

- ・2年生は昨年度、保健体育科でダンスの授業を経験しているが、視聴覚教材を活用しての基本的なステップの習得に多くの時間を費やしたため、生徒が主体的に活動する場が少なかった。しかし、ダンスに対して意欲的な生徒は多く、よりレベルの高い技能の習得を目指す生徒もいるため、生徒の課題に応じた指導が必要である。

(2) 期待される成果について

- ・外部指導者が行う模範演技により、生徒の興味・関心を高め、意欲的な活動につながる。
- ・外部指導者との連携により、教員の指導力の向上につながる。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導の在り方

- (1) 外部指導者と担当教員による打合せでは、授業前に学習課題の確認、授業後には達成度の確認と次時の課題の設定などを、可能な限り細かく行う。
- (2) 担当教員と外部指導者の役割を明確にし、それぞれの立場で互いにサポートすることで、生徒の課題に応じた指導をし、ダンスの楽しさを十分に体感させる。

2 ダンスの楽しさを味わうことができる指導方法の工夫

- (1) 手つなぎ鬼など遊びの要素を取り入れた活動やリズムに合わせた準備運動、即興的な動きの練習により、動きやすい雰囲気作りを行う。
- (2) 基礎・基本の定着を目指して、基本的なステップの反復練習を行う。そして、創作の場面で生徒の主体的な発想や活動を生かしながら段階的な指導を行う。

3 生徒の意欲や向上心を育てる内容の工夫

- (1) 外部指導者の模範演技により、目標となる動きを意識して意欲的に課題解決に取り組ませる。
- (2) 身に付けているステップやBGMのイメージによる創作をさせることで、難しい動きにこだわることなく、誰もが無理なく身体を動かすことができる環境作りに努める。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 年間指導計画の中で他領域と重ならないように工夫し、体育館で授業を行うことで、より安全で広い場所を確保した。
- 2 互いの間隔を十分にとることやグループでの活動場所に気を付けることなど、生徒一人一人に安全について配慮した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 高い専門性を発揮するだけでなく、大学生という生徒と年齢の近い立場の者が指導を行ったことで、生徒はダンスの楽しさを味わったり、魅力を感じたりすることができた。
- 2 外部指導者を活用することにより、生徒一人一人に細かな指導ができ、技能や態度を定着させることができた。また、担当教員も外部指導者の専門的な演技等を間近で見ることで、ダンスの指導力の向上につなげることができた。

○研究内容

【オリエンテーション】
外部指導者からの説明



【ウォーミングアップ】
バランスを取りながらのストレッチ



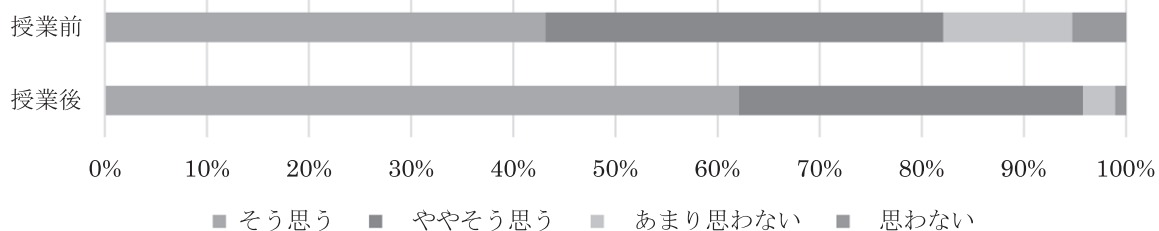
【ウォーミングアップ】
ランニングエクササイズ



【振り付け練習】
外部指導者からのアドバイス



【アンケート結果・2年生対象「ダンスの学習が好きですか。」】
授業後には、授業前と比べ、ダンスに対する意欲が高まった。



【実践校としての成果と感想】

外部指導者を活用することにより、本校の教員だけでは指導が困難であった個に応じたきめ細かい指導ができた。生徒は、レベルの高い模範演技や的確なアドバイスを受け、大いに技能が向上した。また、授業の始めに行ったアイスブレイキングでは、毎回異なるドリルを工夫して行うため、生徒も自然に明るい雰囲気の中で活動することができた。外部指導者との連携についても、回を重ねるごとに外部指導者と担当教員の役割分担が明確になり、協力しながら指導に当たることができるようになった。来年度も外部指導者を活用することで更に生徒の意欲や技能の向上が期待できる。外部指導者を活用することは大変効果的だけに、担当教員にとどまらず、他の保健体育科教員も授業に参加できるような体制を作っていくことができれば、更に本事業の効果が高まると感じた。

地域大学(外部指導者)と効果的に連携し、生徒のダンスへの意欲及び技能を高めた実践例

学校名 松山市立桑原中学校(愛媛県) 1～3年
全校児童生徒数 473名(男子258名 女子215名)
種目等 ダンス(現代的なリズムのダンス)
(本事例に係る問合せ先)
電話番号 089(943)-5152
学校メールアドレス kuw-jof@esnet.ed.jp

- 1 実践研究のねらい
 - (1) 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導の在り方
 - (2) ダンスの楽しさを感じ、生徒の意欲や技能を高める工夫
- 2 実践研究の概要
 - (1) 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導の在り方
 - ① 外部指導者との打合せ時間を十分に確保する。
 - ② 担当教員と外部指導者が互いの立場でサポートする。
 - (2) ダンスの楽しさを感じ、生徒の意欲や技能を高める工夫
 - ① ウォーミングアップから軽快なリズムのBGMを活用し、動きやすい雰囲気づくりを行う。
 - ② 外部指導者の師範を見せることによって、生徒のモチベーションを高める。
 - ③ 創作の過程で、仲間と関わり合い、お互いのよさを認め合う場を設ける。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

- 1 授業に入る前、愛媛大学の代表の方と実施学年や配慮生徒、ダンスの内容について 打合せを行った。また、毎時間終了毎に、外部指導者に引継書を作成していただいた。 その際に、教員と共に授業を振り返り、次時の展開の工夫へとつなげていった。
- 2 外部指導者の師範を多く見せ、大きくリズムカルな動きを意識させた。
- 3 創作のパートを必ず入れ、仲間との関わり合いながら学習が進むようにした。また、単元の最後には、発表会を設け、お互いのよさを認め合えるようにした。

○児童生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

- 1 ウォーミングアップから軽快なリズムのBGMを活用し、動きやすい雰囲気づくり の中で体をほぐしていった。さらに、セルフストレッチを行い、けがの防止に努めた。
- 2 生徒の安全意識を向上させるために、授業中の安全面への言葉掛けを多く行った。

○成果の意義と今後の課題

- 1 外部指導者(愛媛大学のダンス部)を活用するのも、本校では5年目になる。生徒のダンスへの意欲や技能は、かなり高いものになっている。外部指導者の生き生きと 踊る姿に影響され、全ての学年の生徒が、楽しんでダンスを踊ることができた。
- 2 グループごとにダンスを創作する活動を取り入れた。全てのグループで、仲間と関わり合う状況が見られた。また、単元の最後に、発表会を設けることで、互いのよさを認め合うことができた。
- 3 外部指導者と保健体育科教員の効果的な関わり方について、さらに研究を深めていき、効果を上げていきたい。